

MIIC Worship Service – 2022.07.10

Title: “Colossians: Truth or Tolerance?”

Text: Colossians 1:1~2, NIV

『コロサイ人への手紙:真理か許容か』

聖書箇所:コロサイ人への手紙1章1~2節(新改訳)

¹ Paul, an apostle of Christ Jesus by the will of God, and Timothy our brother ² To God’s holy people in Colossae, the faithful brothers and sisters in Christ: Grace and peace to you from God our Father.

1:1神のみこころによる、キリスト・イエスの使徒パウロ、および兄弟テモテから、1:2コロサイにいる聖徒たちで、キリストにある忠実な兄弟たちへ。どうか、私たちの父なる神から、恵みと平安があなたがたの上にありますように。

Introduction

I’d like to ask you some questions.

今日は、皆さんに、いくつか質問させていただきます。

Do the heavenly bodies (planets, sun, moon & stars) have any influence over our lives? That’s a “yes” if you’d consider the millions of people who consult their horoscopes each day.

天体、いわゆる、惑星や太陽、月や星は、私たちの人生に何らかの影響を与えるのでしょうか？毎日、何百万人もの人々が星占いを見ていることを考えれば、答えは「影響を受けている。」と言えるでしょう。

Is there any relationship between what you eat and spiritual living?// Does God speak to us immediately, in our minds, or only through His Word, the Bible?// Do “mystic religions” (New Age practices) have something to offer those who are Christians?

では、食べることと霊的な生活には、何か関係はあるのでしょうか？神は、私たちの心に直接話しかけてくれるのでしょうか、もしくは、神の言葉が書かれている聖書を通してのみ、私たちに語ってくれるのでしょうか？「神秘主義的な宗教」と言われている水晶占いのような他の宗教は、クリスチャンである私たちに何か意味があるのでしょうか？

These questions sound very contemporary as they were in A.D. 60, when Paul wrote the Epistle to the Colossians. They are the same issues that he tried to address. The Word of God is as relevant to us now as it was during their time.

これらの問いは、パウロがコロサイ人への手紙を書いた紀元60年当時と同じように、今の時代でもよく問われる質問です。それはまさしく、当時パウロが取り組もうとした問題と同じなのです。神の言葉は、パウロらの時代と同じように、現代の私たちにも関係があるのです。

In our passage today, Paul addresses the believers at Colossae. We will do a series on this book and so to help us appreciate more what we will study later, let’s consider some background information on this epistle.

今日の箇所では、パウロはコロサイの信徒たちに向かって話しています。私たちはこの書、『コロサイ人への手紙』を何回かに分けてシリーズにして勉強していきますので、これから勉強する内容をより深く理解するために、まず、この手紙が書かれた時の背景について考えてみましょう。

I. The city of ancient Colossae

まず、『古代のコロサイの街』についてお話ししましょう。

I. 古代コロサイの街

Colossae is located about 160 km east of Ephesus. It is quite close to both Hierapolis and Laodicea. All these places are in Asia Minor or in modern day Turkey. It's not surprising that these places are mentioned in this letter because of their proximity. For example...

コロサイの街はエフェソスから東に160キロほど離れたところにあります。ヒエラポリスとラオディキアの両方にかなり近いところ。これらの場所はすべて、現代の小アジアかトルコにあたります。これらの地域がこの手紙の中で言及されているのは、コロサイに近かったからです。例えば、コロサイ人への手紙4章13節では、次のようにラオデキヤとヒエラポリスという地名が出てきます。

Colossians 4:13 - I vouch for him [Epaphras] that he is working hard for you and for those at **Laodicea** and **Hierapolis**.

コロサイ人への手紙4章13節—4:13私はあかしします。彼はあなたがたのために、またラオデキヤとヒエラポリスにいる人々のために、非常に苦勞しています。

Colossians 4:16 - After this letter has been read to you, see that it is also read in the church of the **Laodiceans** and that you in turn read the letter from **Laodicea**.

コロサイ人への手紙4章16節—4:16この手紙があなたがたのところで読まれたなら、ラオデキヤ人の教会でも読まれるようにしてください。あなたがたのほうも、ラオデキヤから回って来る手紙を読んでください。

But, not all places are created equal. **Hierapolis** was a place known for health, pleasure and relaxation. It has a temperate climate for most of the year. This area is drawing the weary to its thermal springs and is famous for a carbonate mineral left by the flowing water. Maybe, it's like Arima in Kobe or Hakone in Kanagawa-ken.

しかし、すべての場所が同じような目的で作られているわけではありません。ヒエラポリスは健康、喜び、リラクゼーションのために知られた場所でした。一年の大半を温和な気候で過ごすことができるこの地域は、流水から湧き出る炭酸塩鉱物で疲れを癒すことができる温泉があることで有名でした。もしかしたら、神戸の有馬や神奈川の箱根のようなものだったのかもしれない。

Laodicea, on the other hand, was known for commercial trade and politics. According to Wikipedia, it is situated on a major trade route and in its neighborhood were many important ancient cities. It is probably like Osaka or Nagoya.

一方、ラオディキヤと言う場所は、商業貿易と政治で知られていました。ウィキペディアによると、ラオディキヤは、当時の主要な貿易ルートに位置し、その周辺には重要な古代都市が多くあったということです。大阪や名古屋のようなものだったのでしょう。

And, **Colossae**? It was simply a small town. Well actually, "it's a significant city from the 5th century BC onwards," according to Wikipedia. Yet "it had dwindled in importance by the time of Paul, but was notable for the existence of its local angel cult".

The people who lived there were pagans primarily with a strong intermingling of Jews. It's been estimated that there were 11,000 Jewish "freedmen" in the tri-city area (Colossae, Laodicea and Hierapolis) in 62 B.C.

This helps us to understand the nature of some of the **problems** that arose within the church -- problems of both pagan and Jewish origin.

では、コロサイという場所はどのような場所だったのでしょうか？コロサイは単なる小さな町でした。実は、ウィキペディアによると、「紀元前5世紀以降に重要な都市になった」と書かれています。当時、パウロの時代にはコロサイという街の重要性はあまりありませんでしたが、コロサイの人々は天使の存在を信じ、信仰していたことで注目されていました。

コロサイに住んでいた人々は、主に異教徒であり、ユダヤ人もそこに住んでいました。紀元前62年当時、三都市であるコロサイ、ラオディキヤ、ヒエラポリスには11,000人のユダヤ人の『奴隷の身分から解放された人々』がいたと推定されています。

このような背景を知っておくことは、コロサイの教会で起こったいくつかの問題、すなわち異教徒とユダヤ人の間で生じた問題の本質を理解することに役立つと思います。

II. The Colossian church

次に、『コロサイの教会』について、見ていきましょう。

II. コロサイの教会

- A. When Paul was a prisoner in Rome, awaiting his upcoming trial before the Emperor, he wrote this letter to the Colossians. The Bible doesn't tell us when this church was established. But, we can say with certainty that Paul himself did not start it. How do we know that? He said it implicitly...
- A. パウロは、彼がローマで囚人となり、皇帝の前で裁判の判決を待っていたときに、コロサイの信徒に向けて、この手紙を書きました。このコロサイの教会がいつ設立されたかは、聖書には書かれていません。しかし、パウロ自身がこの教会を始めたのではないということは、確実に言えることです。なぜ確実だと言えるのかというと、パウロは暗に、そのことをコロサイ人への手紙の中で、次のように言っているからです。

Colossians 1:4 - because **we have heard** [only] of your faith in Christ Jesus and of the love you have for all God's people—

コロサイ人への手紙1章4節—1:4それは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱えている愛のことを聞いたからです。

Colossians 2:1 - I want you to know how hard I am contending for you and for those at Laodicea, and for **all who have not met me personally**.

コロサイ人への手紙2章1節—2:1あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。

- B. Paul had worked with a man named, Epaphras, when he was in Ephesus. Paul sent him to bring the good news about Jesus to this city. He was later arrested and brought to Rome as a prisoner himself. Paul learned from him what was happening in the church. Let's see what Paul had written about him...
- B. パウロは、エペソにいたとき、エパfrasという人と一緒に働いていました。パウロは、この街コロサイに、イエス様についての良い知らせを伝えるためにエパfrasを派遣しました。エパfrasは後に逮捕され、囚人としてローマに連行されてしまいました。このように、パウロはエパfrasから、教会で何が起きているかを知ったのでした。パウロが彼についてどんなことを書いていたか見てみましょう。

Colossians 1:7-8 - ⁷You learned it from **Epaphras**, our dear fellow servant, who is **a faithful minister of Christ on our behalf**, ⁸and who also told us of your love in the Spirit.

コロサイ人への手紙1章7節—1:7これはあなたがたが私たちと同じしもべである愛するエパfrasから学んだとおりのものです。彼は私たちに代わって仕えている忠実な、キリストの仕え人であって、1:8私たちに、御霊によるあなたがたの愛を知らせてくれました。

Colossians 4:12-13 - ¹²**Epaphras**, who is one of you and a servant of Christ Jesus, sends greetings. He is always wrestling in prayer for you, that you may stand firm in all the will of God, mature and fully assured. ¹³I vouch for him that he is working hard for you and for those at Laodicea and Hierapolis.

コロサイ人への手紙4章12節—4:12あなたがたの仲間のひとり、キリスト・イエスのしもべエパfrasが、あなたがたによろしくと言っています。彼はいつも、あなたがたが完全な人となり、また神のすべてのみこころを十

分に確信して立つことができるよう、あなたがたのために祈りに励んでいます。4:13私はあかしします。彼はあなたがたのために、またラオデキヤとヒエラポリスにいる人々のために、非常に苦勞しています。

- C. Some members of the church include **Philemon, Apphia, and Archippus**. When we compare the Epistle to the Colossians and Philemon, we can conclude that they were at Colossae. Philemon probably hosted the church.

C. 教会のメンバーには、ピレモン、アピア、アルキポなどがいました。コロサイの信徒への手紙とピレモンへの手紙を比較してみると、彼らはコロサイにいたと結論づけることができます。ピレモンはおそらく教会を主催していたのでしょう。

1. About Archippus:

Colossians 4:17 - Tell **Archippus**: "See to it that you complete the ministry you have received in the Lord."

アルキポが、どんな人物だったのかが、コロサイ人への手紙4章17節に次のように書かれているので、お読みします。

1. アルキポについて

コロサイ人への手紙4章17節— 4:17アルキポに、「主にあつて受けた務めを、注意してよく果たすように。」とってください。

It is possible that **Archippus** served as the preacher at Colossae and took over the leadership when Epaphras was arrested because of the gospel.

また、アルキポはコロサイで伝道師を務め、エパfrasが福音のために逮捕されたときに指導権を引き継いだ可能性があります。そのことが、ピレモンへの手紙1章に書かれています。

Philemon 1:1~2 - ¹ Paul, a prisoner of Christ Jesus, and Timothy our brother, To **Philemon** our dear friend and fellow worker— ² also to **Apphia** our sister and **Archippus** our fellow soldier—and **to the church that meets in your home**:

ピレモンへの手紙1章1から2節—1:1キリスト・イエスの囚人であるパウロ、および兄弟テモテから、私たちの愛する同労者ピレモンへ。また、1:2姉妹アピヤ、私たちの戦友アルキポ、ならびにあなたの家にある教会へ。

B. About Onesimus:

Colossians 4:9 - He is coming with **Onesimus**, our faithful and dear brother, who is one of you. They will tell you everything that is happening here.

Philemon 1:10~11 - ¹⁰ that I appeal to you for my son **Onesimus**, who became my son while I was in chains. ¹¹ Formerly he was useless to you, but now he has become useful both to you and to me.

次に、オネシモについて見てみましょう。コロサイ、ピレモンの中では、オネシモのことが次のように書かれています。

B. オネシモについて

コロサイ人への手紙4章9節—4:9また彼は、あなたがたの仲間のひとりで、忠実な愛する兄弟オネシモといっしょに行きます。このふたりが、こちらの様子をみな知らせてくれるでしょう。

ピレモンへの手紙1章10から11節—1:10獄中で生んだわが子オネシモのことを、あなたにお願いしたいのです。1:11彼は、前にはあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにとっても私にとっても、役に立つ者となっています。

Many Bible teachers think they may have been members of the same household: **Philemon**, the father; **Apphia**, the mother; **Archippus**, the son. **Onesimus** was the runaway slave belonging to this family, but he became a Christian when he met Paul.

多くの聖書解説者たちは、彼らが同じ家庭の一員であったかもしれないと考えています。父親はピレモン、母親はアピア、息子がアルキポだと考えられています。そして、オネシモはこの一家に属する逃亡奴隷でしたが、パウロと出会ってクリスチャンになったのでした。

III. The Colossian believers' colossal problem

これまで、コロサイの街、教会と見てきましたが、次は、『コロサイの信者が抱える大きな問題』についてみていきましょう。

III. コロサイの信者が抱える大きな問題

A. Epaphras had brought news to Paul concerning the church at Colossae (See Col 1:3~8). For the most part, it was very positive. Listen how the apostle Paul commended them.

A. エパfrasはパウロにコロサイの教会に関する知らせを持ってきました(コロサイ1:3~8参照)。それはほぼ、肯定的な良い知らせでした。そこで、使徒パウロがどのようにコロサイ人たちを賞賛したかを聞いてください。当時の、パウロのコロサイ人たちへの称賛が次の聖書箇所に書かれていますので、お読みします。

Colossians 1:3~4 - ³We always thank God, the Father of our Lord Jesus Christ, when we pray for you, ⁴because we have heard of **your faith in Christ Jesus** and of **the love you have for all God's people**—

コロサイ人への手紙1章3から4節—3私たちは、いつもあなたがたのために祈り、私たちの主イエス・キリストの父なる神に感謝しています。1:4それは、キリスト・イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛のことを聞いたからです。

Colossians 1:8 - and who also told us of **your love in the Spirit**.

コロサイ人への手紙1章8節—1:8私たちに、御霊によるあなたがたの愛を知らせてくれました。

Colossians 2:5 - For though I am absent from you in body, I am present with you in spirit and delight to see **how disciplined you are** and **how firm your faith in Christ is**.

コロサイ人への手紙2章5節—2:5私は、肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたといっしょにいて、あなたがたの秩序とキリストに対する堅い信仰とを見て喜んでいます。

B. But from the content of the letter, Paul must have also been informed of the two (2) **dangers** affecting the church; I'd say, **colossal problems** besetting them.

B. しかし、この手紙の内容から、パウロは、教会に迫っている二つの危険、つまり、重大な問題をも知らされていたに違いないのです。

1. There was the danger of their relapsing into **paganism** with its **immorality** (implied by his comments such as in Colossians 3:5~11).

そのコロサイの信者たちに起こっていた二つの問題のうちの一つは、『不道德な異教徒になってしまう危険性があった』と言うことです。

1—1. 不道德な異教徒に陥る危険性があった(コロサイ3:5~11などのコメントで示唆されています)

2. There was the danger of **accepting false doctrines**. These counterfeit teachings **denied the all-sufficiency of Jesus Christ** for salvation and for overcoming the inclinations of the sinful nature. Moreover, the culture surrounding them promoted:

二つ目の問題は、『偽りの教義を受け入れる危険性があった』と言うことでした。

1—2.コロサイの信者たちは、偽りの教えを受け入れる危険性がありました。これらの偽りの教えは、イエス・キリストが私たちの罪深い性質に打ち勝つために来られたこと、そして救いのために来られたことを、全て否定する偽りの教えでした。さらに悪いことには、彼らを取り巻く文化は、そのことを促すような文化だったので。例えば、次のようなコロサイの文化が偽りの教えを助長すると考えられます。

- Jewish ceremonialism, which attached special significance to the rite of circumcision, food regulations, and observance of special days (Colossians 2:16~17).
- Angel worship, which detracted from the uniqueness of Christ (Colossians 2:18).
- Asceticism, which called for harsh treatment of the body to control its lusts (Colossians 2:20~23).
- ユダヤ教の儀式主義: 割礼、食事制限、特別な日を設けて特別な意味を持たせた(コロサイ2:16~17)
- コロサイの天使崇拜: 天使を崇拝することにより、キリストが唯一の神であると言う意味を損なう(コロサイ2:18)
- 禁欲主義: 欲望を抑えるために肉体に制限を与える(コロサイ2:20~23)

Their colossal problem then, was **a syncretism**, that is, a mixture of Jewish and pagan elements. When the gospel is diluted, the truth is sacrificed on the altar of tolerance. It becomes hardly recognizable and is stripped of its power.

つまり、コロサイには、ユダヤ教と異教徒の要素が混在していたのでした。福音の伝わりが弱くなったり、福音の理解が弱まったりすると、真理は、大まかな意味を持ち始めてしまい、ほとんど認識されなくなり、その力を奪われてしまうのです。

Conclusion/Application

1. Paul's Epistle to the Colossians aims to warn the believers of the dangers of going back to their pagan practices and of denying the sufficiency and preeminence of our Lord Jesus Christ. Syncretism **spouses tolerance** and **sacrifices the truth** of the gospel.

1. パウロのコロサイ人への手紙は、信者たちに、異教徒の習慣に戻ってはいけないと警告しています。また、私たちの主イエス・キリストが、満ち足りた卓越したお方だと言うことを否定することは危険だと警告するために、コロサイ人への手紙は書かれました。シンクレティズムすなわち、別々の信仰、文化、思想学派などを混ぜ合わせることは、許容範囲を広げてしまい、福音の真理が妥協されてしまうのです。

We must be careful, then, on what we believe in. "**Examine yourselves** to see whether you are **in the faith; test yourselves**. Do you not realize that Christ Jesus is in you—unless, of course, you fail the test?" (2 Corinthians 13:5)

ですから、私たちは、自分が何を信じているのかに注意しなければなりません。『あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身のためし、また吟味しなさい。それとも、あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられることを、自分で認めないのですか。——あなたがたがそれに不適格であれば別です。』と、第二コリント13章5節には、書かれています。

2. Jesus Christ is our pre-eminent and all-sufficient Savior.

Colossians 1:18 - ¹⁸ And he [Jesus Christ] is the head of the body, the church; he is the beginning and the firstborn from among the dead, so that **in everything he might have the supremacy**.

2. イエス・キリストは、全てを卓越した、すべてにおいて満たされた、私たちの救い主であられるのです。最後に、コロサイ人への手紙 1章18節を読んで、締め括りたいと思います。

コロサイ人への手紙 1章18節 - 18 また、御子はそのからだである教会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです。